

特別支援教育を通じた地域連携

1 目的と経緯

本校は全校生徒530名であり、南都留では最も大きい規模の学校である。特別支援教室は、知的・情緒・弱視の3クラスで本年度は、11名在籍している。通常学級の担任や学校だけでは限界があり、地域と連携できないか検討してきた。

2 内容

「問題行動の突破口は、特別支援教育にある」との学校長の考えと、今後特別支援学級の生徒が多く在籍していくことから、校内研の研究主題を「通常学級における多様な教育的ニーズの把握と合理的配慮の手立て」と設定し、学習を積み重ねた。また、校内委員会を情報交換の場ではなく、課題を持つ生徒の実態把握を行い、今後の対応を協議する場とし、組織的に取り組んだ。学校での対応が的確かどうか、ケース会議の場にふじざくら支援学校地域支援部の先生を招きアドバイスをいただいた。

適切な支援を行っていくためには、家庭との連携が欠かせない生徒も数多く存在することから、富士河口湖町子育て支援課や福祉課、SSWと協力して対応した。また、健康科学大学クリニックや障害福祉サービス事業所との連携もできた。

3 成果と課題

支援学校の先生からのアドバイスを他の生徒にも生かすことができた。また、これをきっかけに支援学校の先生に生徒の学校生活を見ていただき、今後の対応に役立てることができた。学校としても校内研で学んだことを参考に、特別な支援を要する生徒への対応が組織として実践できている。保護者対応についても子育て支援課と連携することができたので、学校と家庭が力を合わせ、子どもたちの支援にあたることができている。

課題として、来年度さらに8名の生徒が特別支援学級に入級予定である。今後、更に増加していく可能性があり、教職員だけで適切な対応は難しくなる。また、生徒を取り巻く環境がさらに複雑化してくる。学校以外の外部機関などとさらなる連携が必要になってくると考えられる。